

2020年 1月19日 月3回刊 日曜日発行
発行所 広島民報社
〒730-0013 広島市中区八丁堀8-11/電話(082)228-4046
(昭和41年2月19日第三種郵便物認可)
1ヵ月240円(送料126円)/1部80円
郵便振替 01330-2-34778
© 広島民報社 2020年

広島民報

日本共産党が新春宣伝
日本共産党の大平喜信前衆院議員は広島、福山市の議員団とともに「今年是被爆75年の節目。核兵器禁止条約に背を向ける安倍政権を退陣させ、野党連合政権を実現させよう」と訴えました。

福山・草戸稲荷神社
福山市では1日、辻恒雄県議、村井明美、高木みよし、土屋のり、河村ひろ子の4市議、みよし剛史市議候補と草戸稲荷神社前で宣伝しました。



(左から)大平、辻、河村、村井、高木、みよし、土屋の各氏=1日、福山市



(左から)吉瀬、中原、大平、藤井、近松、中森の各氏=3日、広島市



被爆75年スタート
核兵器廃絶へ「6・9行動」
今年には原爆投下から75年の節目で、広島県原水協と同被爆団協(佐久間邦彦理事長)は6日、毎月恒例の「6・9行動」(核戦争阻止、核兵器廃絶、被爆者援護を求める街頭署名)を広島市中区で行いました。

神を受け継いで、4月24、26日に核大國アメリカのニューヨークで世界大会が初開催されます。また、5年ごとに国連で開かれるNPT(核不拡散条約)再検討会議があります。

浮かぶ河井克行前法相と案里参院議員夫妻の果たさぬま雲隠れして2ヵ月余り。「臭いものに蓋」を許すわけにはいきません。(わ)

小林愛子(こばやし・あいこ)さんプロファイル
《小林愛子(こばやし・あいこ)さんプロファイル》広島で爆心地から1.5kmの自宅で被爆。現在81歳。兵庫県加古川市在住。元プロ野球選手の張本勲さんのお姉さん。小学校などの被爆体験の語り部や、「ヒバクシャ国際署名」も先頭に

たつて奮闘中。
大平 新年明けましておめでとうございませう。
小林 おめでどうございませう。よろしくお願ひします。

約が成立して初めてのNPT再検討会議、そしてそれにあわせてニューヨークで原水爆禁止世界大会もおこなわれます。「あの惨劇を二度と世界のどこにも繰り返させてはならない」という被爆者の願いに今年もあわせて

逃げんさい。はよう逃げんさい」と言うので私が「お母ちゃんも一緒にいこう」と言うと、「お母ちゃんはこのこにいないとお兄ちゃんやお姉ちゃんも帰ってきませんよ」と言われ、

大平 本当につらかったですね。貴重なお話をありがとうございます。昨年映画『ひろしま』がテレビで放送されたり、基町高校という学校の生徒が被爆者から話を聞き当時の情景を描いた「原爆の絵」が大きく注目を

大平 ところで弟の勲さんというのは、プロ野球の張本勲さんのことですね。僕も小学校から高校までずっと野球をやっていました。

大平 えー！(2面へ続く)

新春対談
被爆75年の節目
核兵器廃絶へ(上)
小林愛子さん



小林 そうですね。小学1年生の7歳で、今の広島市南区の段原に住んでいました。その日は家で母と私、5歳になる弟の勲がいました。8時15分、突然「ピカッ」と光ったと思ったら次の瞬間に「ドン、ガシャガシャガシャ」と家のガラスがみんな割れて、すぐに母が私と弟の上にかぶさって守ってくれました。でも気づいたら割れたガラスが母の体中に突き刺さり、その血で私の服が真っ赤に染まっていたの。母が「はよう勲を連れて逃げんさい。はよう逃

んがおにぎりをくれました。それを食べたところから眠ってしまったのか記憶がなくなりました。翌日か翌々日か、母と兄と再会し、まだ帰ってきていない姉を探し回りました。姉は体育館のような所で大火傷で横たわっていました。ある日、母が姉のそばで泣いていた。それで、「あー、お姉ちゃんも死んでしまったんだ」と思ってしまった。その後、ほとんど記憶にないのね。

大平 ところで弟の勲さんというのは、プロ野球の張本勲さんのことですね。僕も小学校から高校までずっと野球をやっていました。

大平 えー！(2面へ続く)

地下水
きな臭さと胡散臭さで息が詰まるような年明けとなりました。前者は言うまでもなく、米軍によるイラン軍司令官殺害に端を発した中東での戦争勃発の懸念からです。どんな理由があれ、トランプ政権の今回の行動は断じて容認できません。同時に、腹立たしいのは日本の安倍政権の対応です。横暴極まりない米国にも言わぬばかりか、軍事的緊張が解けぬ中で自衛隊の中東派兵を強行するのは、トランプ政権へのご機嫌とりとしか言いようのない恥すべき態度です。◆後者は何と云ってもIR汚職の話。そもそも、カジノを経済成長戦略の柱に掲げる政権の姿勢がまっとうではありませぬし、巨大利権に群がる業者と政治家の存在も露見してききました。名前の挙がった国会議員の言い種には、まるで真実味が感じられませぬ。◆胡散臭いと言えども当地にも同類の人物がいま